

PL-1000簡易取扱マニュアル

このマニュアルは、基本的な使用方法を簡単にまとめたものです。

83KHzの周波数を用いて、最大法で位置探査を行い

引上げ方式で深度測定を行う場合のみを記載しております。

記載している以外にも、様々な周波数や探査モード及び深度測定方法を搭載しております。

このマニュアル以外の機能をお使いになろうとする場合は
取扱説明書を御覧下さい。

PL-1000には送信出力方式が2種類搭載されております。

配管の立上がり部分やバルブ等が無い場合や、

有無も不明な配管を探そうとする場合は誘導法を選択しますので

1ページと3ページを御覧下さい。

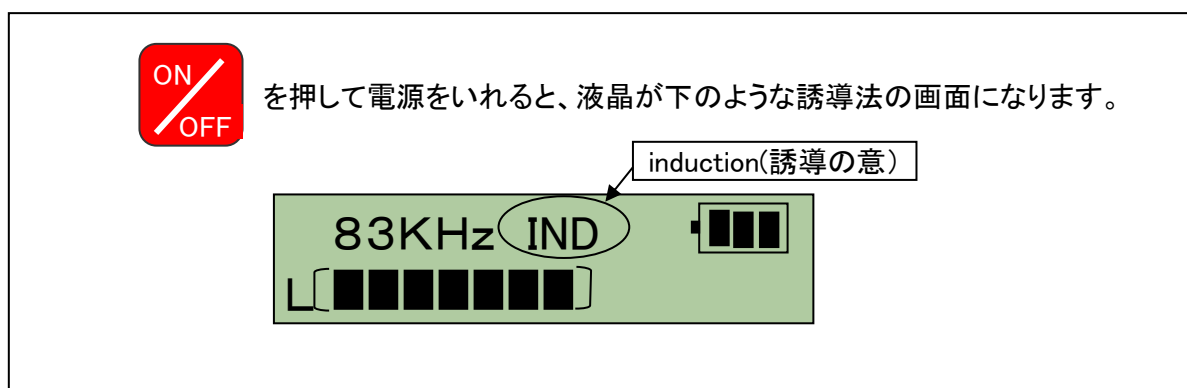
1種類の配管ルートを追っていく目的で、配管の立上がり等がある場合は
直接法を選択しますので、2ページと3ページを御覧下さい。

* 原理

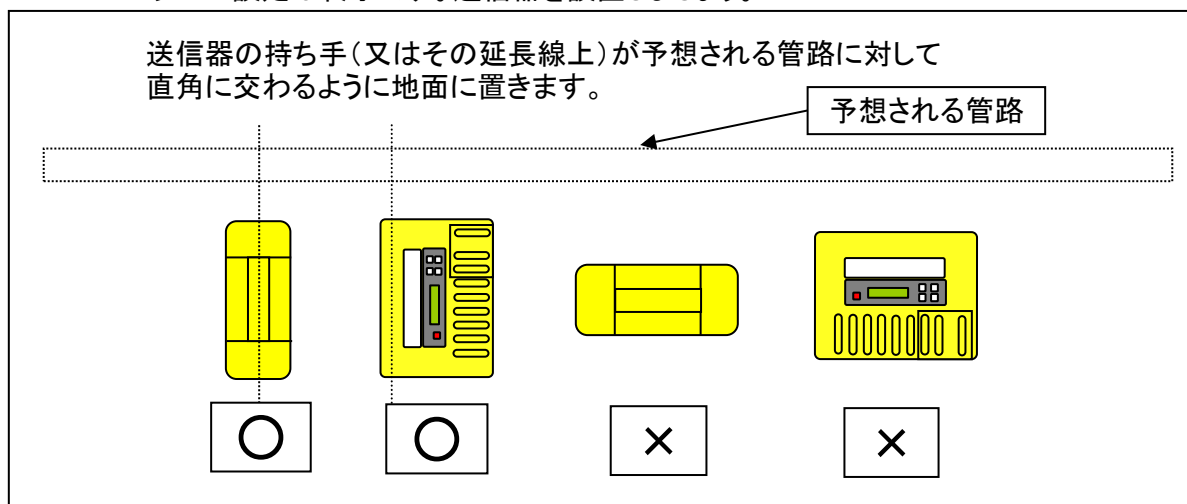
誘導法: 送信器から電磁波を発射し、形成された磁界の中を通る埋設金属管(線)に
信号電流を流します。

直接法: 送信器から埋設金属管(線)に直接接続して信号電流を流します。

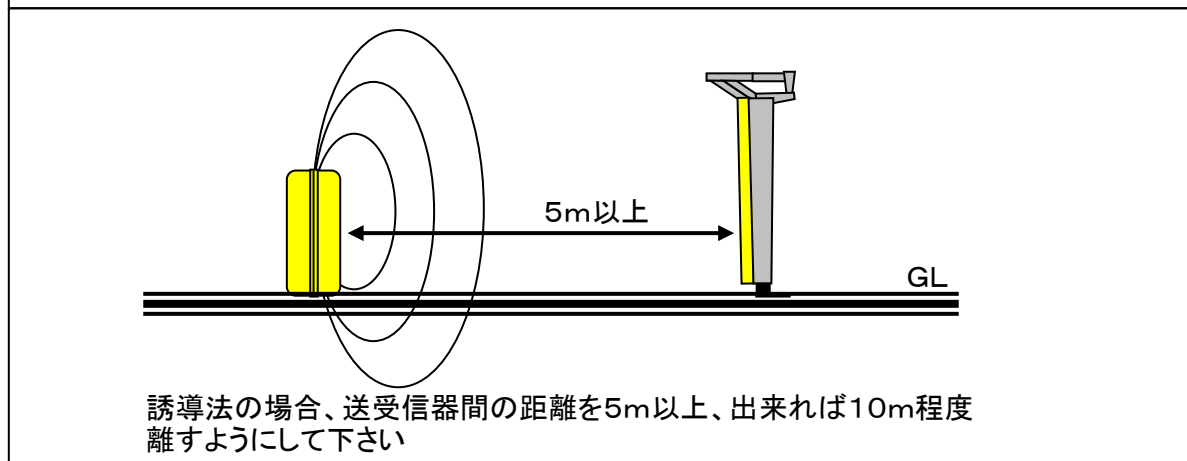
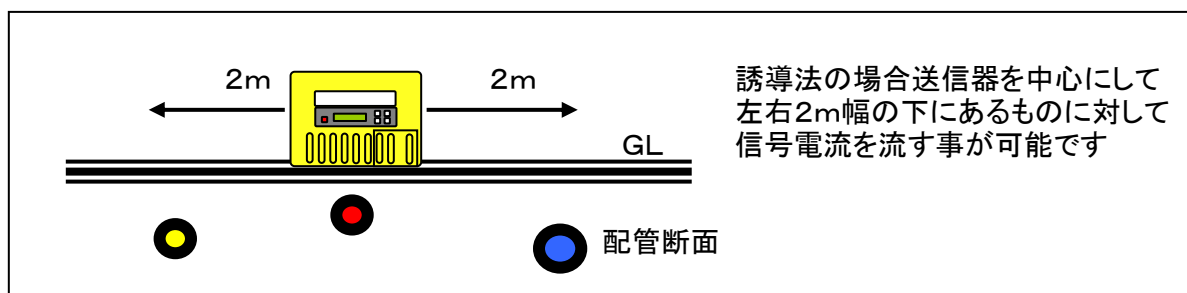
1. 送信器の使用方法(誘導法)



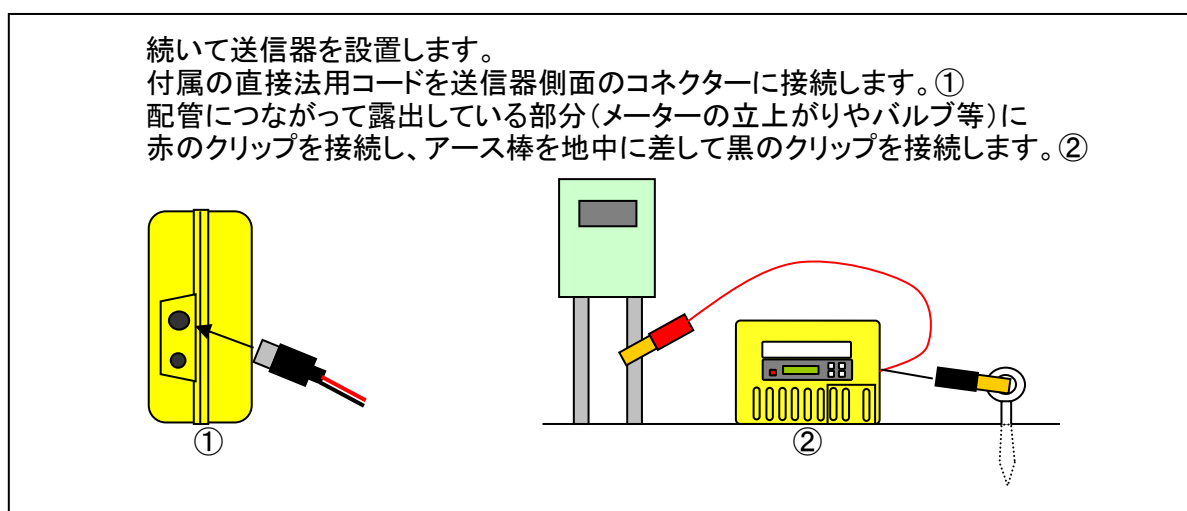
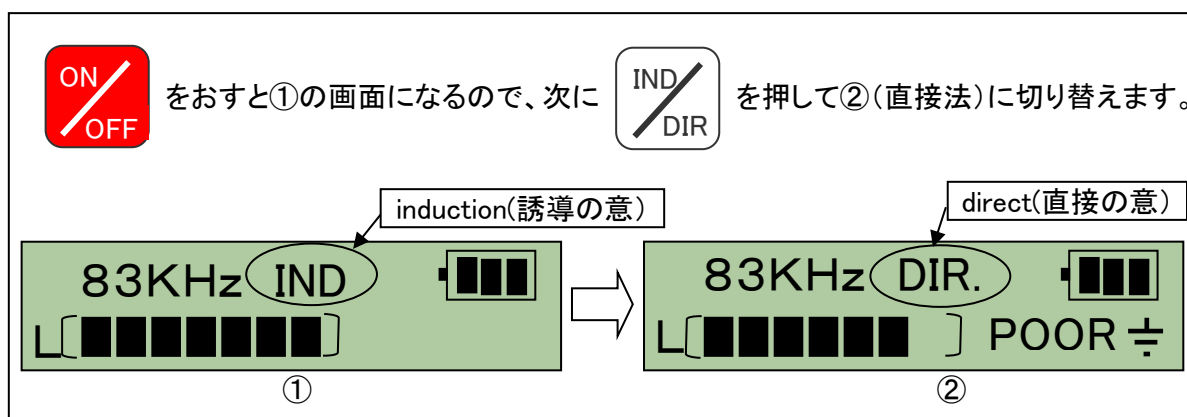
以上で設定は終了です。送信器を設置しましょう。




以上で送信器の設置も終了です。以下の2点に注意して下さい。




2. 送信器の使用方法(直接法)



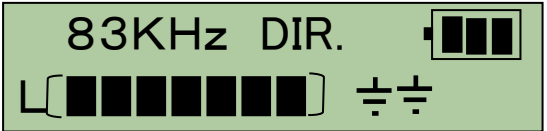
次にアース状態を確認します。

前述の状態から  を1回押して出力を最大にします。

その時に液晶画面のPOORが消え、⚡ が1～3個表示されればアース状態は良好です。



⇒



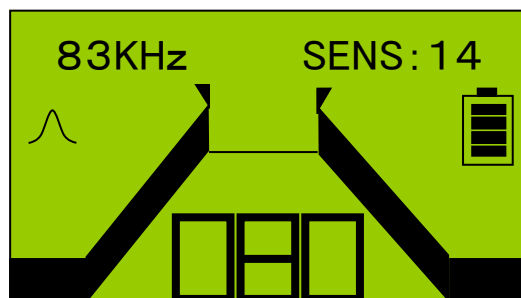
上記の操作を行っても、「POOR」が消えない場合は、アース棒を違う位置に差し替えた方が
 良いですが、「POOR」のままだでも(探知距離は短くなりますが)ある程度の探査は可能です。
 また、出力を下げると最終的には「POOR」になりますが、問題ありません。

以上で送信器の設定・設置は終了です。

3. 受信器の使用方法



を押して電源を入ると、下記の画面になります。

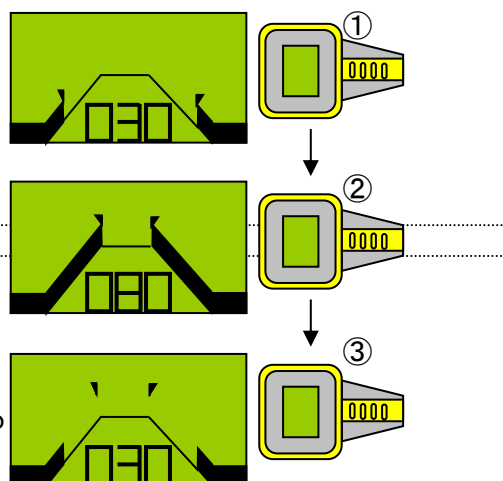


必要に応じて を押して感度調整
をしながら、予想される管路を横断するように
受信器を動かします。

配管

最も液晶バーグラフが上がるピーク点②が
配管の直上です。

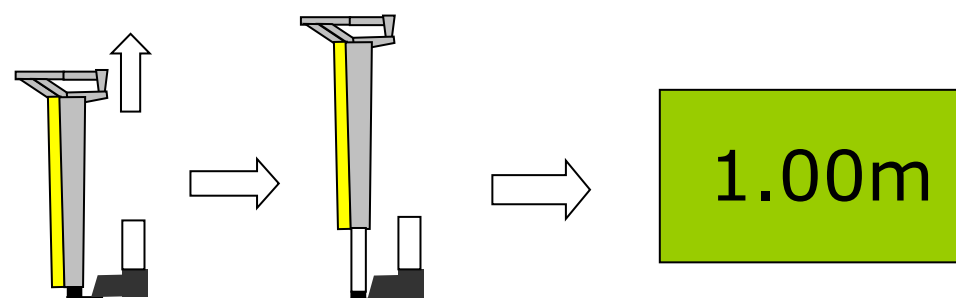
液晶中央に「OVER SIGNAL」と表示されている
場合は、感度を下げてください。



続いて深度測定です。

前述で位置探索した配管の直上②で を押します。

しばらくすると液晶画面に「PULL UP」と表示されますので、
フットプレートを踏んで、持ち手を止まるまで真っ直ぐに引上げると
液晶画面に深度が表示されます。



元の画面に戻すには か を押します。

1

2

3

—

—

—